



つくる、つくろう通信

陣内やすこ

八王子市議会議員・無所属市民派  北野台在住

編集／発行：市民自治の会(陣内やすこ)

〒192-0912 東京都八王子市絹ヶ丘2-11-7 TEL 042-636-8158 FAX 042-636-8640

E-mail jinnaiya@mbk.nifty.com URL <http://homepage3.nifty.com/jinnaiya/>

2008年度予算決まる! 何が変わる、どう変わる!

予算井戸端会議編 (高齢者・子ども・環境中心に)

Iさん：去年の6月から、住民税が2倍になってしまった。税の総額は変わらないというけど、とっても負担感が大きい。どれだけ、住民税が多く、市にはいつているんでしょう？

：2008年度は、9年ぶりに1700億円台というおおきな予算になっているんです。市税収入をみると、人口も増えているので、12億8000万円の増なんです。そのうち、定率減税の廃止や税制改正の影響額だけで、6億円あまりの増です。裏を返すと、それだけ、私たちの税負担が多いということなんですよね。

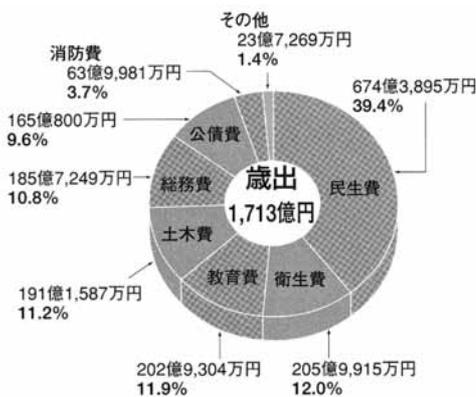
Iさん：給料は上がらないし、税は増えるし。しっかりと、私たちの生活が暮らしやすくなるように税金を使ってもらわなくてはね。

Sさん：ところで、介護保険を利用している高齢者がいるんですが、どうも、介護保険が使いにくくなってね。困っているんですよ。

：どんなことですか？

Sさん：介護予防サービスに移行して、病院までの付き添い介助が利用できなくなってしまったんです。

：制度の改悪のせいですね。2008年度からシルバーサポーター制度が利用できます。ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯の生活支援なんです。1時間150円で利用できるよう。通院介助が利用できるかどうかは、高齢者支援課 (Tel 042-620-7243) に問い合わせてください。



(広報「はちおうじ」3月1日号より)

とくでさい。人材はシルバーサポートセンターから派遣されます。

Yさん：ひとり暮らしなんです、買い物も頼めるのかな？いままで、2時間ホームヘルパーさんが仕事をしてくれたのですが、改正後、1時間30分になってしまっ、買い物か、料理のどちらかしか、時間的に無理になってしまったんですよ。(2ページへ続く)

Cafe Meeting (議会報告会)

4月21日(月) 18時～ (於 カフェケン)

4月26日(土) 10時～ (於 南大沢文化会館第3会議室)

お茶を飲みながら
八王子のアレ・コレ
を話しましょう。



お：大丈夫ではないかしら。詳しい内容は、支援課に問い合わせてください。

Yさん：それと、今まで、配食サービスを利用できていたのですが、特定高齢者でないと利用できなくなったんですが、2008年度はどうでしょう。

陣内：安否確認も含めて、ひとり暮らし高齢者などで、栄養改善が必要な人は利用できるようになります。

Iさん：「ままや」(注1)のように、食事提供サービスを行う団体に援助ができるんですって。

(注1 「ままや」：月1回日本の伝統食を提供していたが、現在は休眠中。)

お：1回15食以上、週2回以上提供する団体に、年間62万4000円補助ができるようになります。また、高齢者サロン活動支援として、10人以上で月2回以上活動する団体に、年間12万円補助が出ます。こういったサポートがあると、地域活動もしやすくなりますよね。やっとなし、高齢者向けの独自施策が始まり、歓迎ですね。その他、市都民税非課税世帯に、火災警報器設置補助や地上デジタル放送視聴機設置補助も予算化されました。

Yさん：これでちょっと安心。子ども施策はどうなっていますか。孫がなかなか保育園に入れなくてね。

お：八王子はまだまだ保育園の待機児童が多いし、年度途中からの入園はほとんど無理な状態です。認証保育園や家庭福祉員は、費用的に高額だったり、多子軽減がなかったんですが、認証保育園や認定子ども園などに預ける場合、月額15,000円、家庭福祉員の場合月額10,000円、そして、多子軽減として、兄弟を預ける場合、月額10,000円の補助制度が始まり、利用しやすくなります。

Yさん：いままで、格差がありすぎたものね。

お：他市では、認可保育園と同じ保育料金体系をとっているところもあるんですよ。まだまだ改善の余地があります。先だって、認証保育園の認可が取り消されたという新聞報道もあったばかりで、保育の質も見ていかなければね。その一方で、**幼児愛育手当が廃止**になるんです。これは、移動保育や家庭保育をしている人を対象に、月額2700円支給されていたのですが、施設保育が適切、という理由なんですね。スクラップアンドビルドも時と場合によっては、必要ですが、この場合は、違います。親の収入や保育の選択によって、支援の額が違うのはおかしいこと。児童手当にもだんだんと所得制限撤廃の考えが導入されてきている時期です。

Bさん：地球温暖化防止対策はどうなっているのかしら。京都議定書の削減目標は実行できているのかな。

お：庁内を対象としたエコアクションプランによって、CO2削減はすすんでいるんですって。更なるCO2削減にがんばってほしいですね。

Sさん：八王子小児病院移転問題はどうかになりましたか。

お：移転にあたり、現状の小児医療サービスに穴をあけない、という約束で交渉しているん

ですが、NICUの設置や小児ドクターカーの配備はできないということが確定しているとのこと。問題です。子どもの命の保障がなくなってしまう。新しく府中にできる小児総合病院まで30分以上かかることを考えると、約束違反です。また、いままでコアクラブが小児病院の隣で、デイサービスをやっていたのですが、それも壊れてしまいます。小児科の医師が派遣されるとのようですが、それなら、サテライト的な施設を今の場所に確保できないのでしょうか。都との交渉にがんばってほしいとおもうのですが、ちょっと見通し悪い状況です。

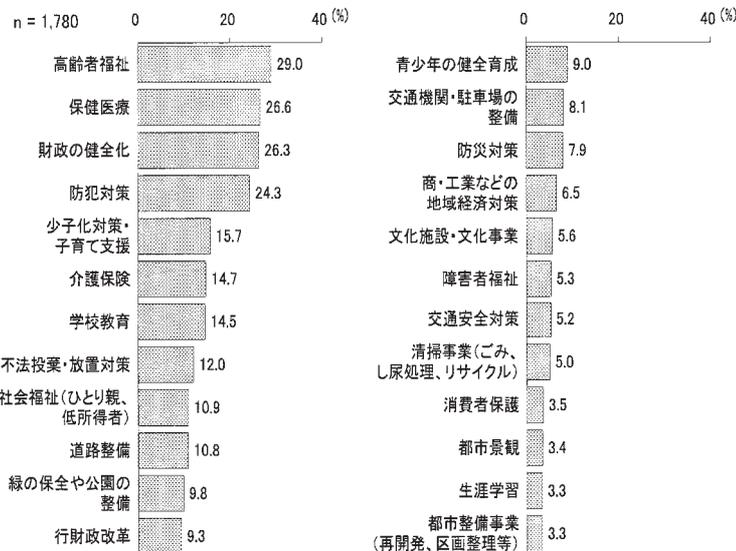
Oさん：ごみは有料化になっても、また、増えてきているらんで？

お：そうなんです。廃プラの中間処理施設工場が戸吹の旧清掃工場跡につくられる計画ですが、発生抑制が第一です。もっと力を入れてほしいものです。レジ袋削減も啓発活動だけではなく、事業者にも削減の数値目標を課し、削減が目に見えるようにしなければなりません。バイオディーゼル燃料を使ったごみ清掃車が2台走っています。生ごみ大型処理機が小学校にさらに一校、設置され、給食残渣の堆肥化が図られます。これだって、どうして全面展開が図れないのか不思議です。



市・民・の・声

世論調査報告より (2007年)



— これからの大型公共事業と事業費の概算(予算質疑より) —

JR八王子駅南口再開発事業
(新市民会館・地域事務所含む)

総事業費 388億6,500万円
市負担 約140億円(確定ではない)
国・都負担 75億6,300万円

JR八王子駅南口地下駐輪場	総事業費約12億円。(しかし15億円とも)
庁舎改修	44億円
高尾の里 整備	14億円
廃プラ中間処理施設建設	7億3,000万円
戸吹総合スポーツ施設	14億6,000万円
総合体育館	50億円とも100億円とも
高尾駅北口広場	3億円～6億円(用地取得のぞく)
高尾駅橋上駅整備	40億円～50億円
高尾山麓駐車場	6,500万円
緑町霊園整備	1億4,000万円
区画整理	今年は約37億円(最終的に1,563億円)
川口物流拠点整備(トラックターミナル)	着々と準備
北西部幹線道路	切れ切れに、できるところから工事進捗
郷土資料館	立て替えるの？

市民病院のひとつも作れそうなくらいの額が、公共事業に投入される予定です。
しかも、この額は、予定額で、いままでの例を見ると、1.5倍くらいに膨らむことも充分考えられます。公共事業全部がいけないなんて言っていません。もつともつと、事業立案も事業費も市民に公開して、精査していかねければなりません。

議会を終えて、おもうこと



長ーい議会でした。予算特別委員会はひとり34分の質疑時間で、答弁が含まれています。最後の2分、市長が時間いっぱい答弁し、反論できませんでした。答弁を含まない時間設定にすべきです。

行政も市長も市民の声を、といます。では、いったい、どんな市民の声を聞いているのか、と、せまったのですが、のれんに腕押し。かみ合った議論になりませんでした。

それにしても、2008年度だけでなく、4年間の公共事業の種をまいておこうという予算だてに、これからの八王子どうなるのか、と心配は膨らむばかりです。4年後は財政調整基金(貯金のことです)がゼロになるという報告もあるのです。

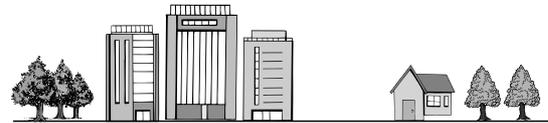
●基本健診がかわいます。

いままで、市の基本検診を受けたことがありますか？
基本検診が今年からなくなり、メタボリックシンドロームに着目した特定健診(無料)がはじまります。国民健康保険以外の方の健診は、各保険組合の責任となります。それぞれの健保組合からのお知らせを観てください。

国民健康保険に加入している人は、受診券が送付されます。
75歳以上の後期高齢者医療保険の方も、受診券が送付されます。

4月～9月誕生月の方 6月下旬予定
10月～3月誕生月の方 8月下旬予定

メタボ健診とは、おかしなものが始まります。
国民、総メタボになってしまいそう。
これって「不健康社会」ではないかしら。



こんな意見書に

賛成 反対 しました。

- 賛成 介護労働者の待遇改善を求める意見書
- 賛成 地デジ放送の受信対策の推進を求める意見書
- 賛成 在沖縄米軍人による少女暴行事件に関する意見書
日米協定の見直し、そして二度とこのような事件が起こらないようにしなければなりません。
- 賛成 自衛隊イージス艦と漁船衝突事件の真相究明などを求める意見書
- 賛成 クラスタ爆弾全面禁止条約の実現を求める意見書
日本は4つのクラスタ爆弾をもっています。だから、自民党市議団は、全面禁止を求めるこの意見書に反対したのかしら。
- 賛成 労働者派遣法の抜本改正を求める意見書
- 反対 道路特定財源の制度維持に関する意見書
すでに小泉内閣のときに、一般財源化は決まったこと。しかも、暫定税率が30年以上も続く不思議な仕組み。そして、道路特定財源で、無駄使いがぼろぼろでてきている。そのウミを出さずに、制度維持とはおかしなことです

■予算等議案の採決状況

陣内	自民党(12人)	公明党(10人)	民主・ク(5人、1人退席)	共産党(5人)	ネット・社民(3人)	諸派(3人)
×	○	○	○	×	×	○○○

出前講座

＝ 後期高齢者
医療制度について ＝

4月24日(木) 10時

場所：みんなの居場所

市の担当者から制度について、
お話しを伺います。

インフォメーション

でかけてみませんか

モディリアーニ展

Modigliani et le Primitivisme

3月26日(水)～6月9日(月)

国立新美術館 (休館：毎週火曜日)

モディリアーニのあの名作に会えます。そして、知られざる原点から150点の出品作品。春のひとときを時間を忘れる世界へと導いてくれることでしょう。

高齢社会の暮らし方を
考え、行動する。

**高齢社会プロジェクト
スタートします。**

ご一緒に勉強しませんか。

第1回 4月21日(月) 14時
場所：みんなの居場所

<http://jinnai.ne.jp>

**ますます
充実!**

ブログにもホームページにも
アクセスできます。
お気に入りに入れてネ。

編集後記

やすこのブログ日記から。

●卒業式、入学式、転出、転入。出発とわかれ。3月4月は涙がいっぱい。嬉し涙もあれば、悲しい旅立ちの涙もある。娘が転勤となり、4月からの新任地に向けて、旅立っていった。「どんな暮らしになるのかな。地方はのんびりしていて、ゆっくりできるんじゃない? 暖かくて、お魚や果物もおもしろい。」一生懸命、娘の旅立ちを納めようとする自分があります。

●朝の議会報告の時、「後期高齢者医療制度に反対して!」と、声をかけてくださる方がいらっやいました。お見受けするところ、75歳にはまだまだという、お元気な方でした。この制度、4月からスタートなんです、まさに差別医療の始まりということで、問題超アリ。保険料は国保より高くなるし、2年おきに改定。医療は慢性病のみとはいえ、かかりつけ医による包括医療、定額制です。イメージが悪いと、「長寿医療制度」と名前が変わったのですが、だまされないぞ。

●医療費が高い、高い、との大合唱ですが、日本の総医療費は、先進国中17位と、低いほうです。思いやり予算として、米軍に2000億円も支払えるのですから、国民の医療費に対しては、それに先駆けて充実させなければならないのですが...

『ヘルプマン』

私の読書ノート

陣内やすこ

「お年寄りを幸せにするのが、おれの仕事っす!」と、爽快に自転車現場を回る、高校中退の恩田百太郎が主人公です。介護福祉士の国家試験を4年間も滑りつぱなしの無免許の彼ですが、「お国のハンコなんかほしくない。ジジババに認めてもらえれば、それが俺の資格だ」と胸を張ります。だから、彼の行く先々で起こっている現実的問題、たとえば、高齢者虐待や独居老人、認知症や高齢者の性、などが、時には壮絶に描かれてはいても、そこには、笑いと希望があるのです。



(イブニングKC 講談社刊)
(1号～9号まで既刊)

介護保険がスタートして7年。2006年の改正で、「誰も幸せにしない介護保険。制度と現実がどんどん離れていってしまっている」と感じていた私にとって、この本の衝撃は計り知れないものでした。百太郎に人をケアすることの原点をみました。介護の介は、媒介の介。まさにその人の人生にどう寄り添い、コミュニケーションの橋渡しをするか。こんな当たり前のことを実践する百太郎ですが、いつも制度とぶつかります。しかしジジババからは絶大な愛をもって受け入れられている。当たり前のことです。

介護保険がスタートして7年。2006年の改正で、「誰も幸せにしない介護保険。制度と現実がどんどん離れていってしまっている」と感じていた私にとって、この本の衝撃は計り知れないものでした。百太郎に人をケアすることの原点をみました。介護の介は、媒介の介。まさにその人の人生にどう寄り添い、コミュニケーションの橋渡しをするか。こんな当たり前のことを実践する百太郎ですが、いつも制度とぶつかります。しかしジジババからは絶大な愛をもって受け入れられている。当たり前のことです。

もう一人の主人公が神崎仁。おなじく高校中退で、百太郎の親友です。ちょっと人生を斜にかまえた彼が、闘うケアマネージャーになっていきます。これからは、闘うケアマネージャーが必要なのですが、神崎仁はそんな一人です。彼がなぜ、闘うケアマネージャーになっていくかは、百太郎と同様、介護される高齢者に寄り添い、かれらの力と充分向き合うからです。

人は一人では生きられない。ケアし、ケアされる存在であるということ、この本からいっぱい教えていただきました。「イブニング」で連載中。まだまだ目が離せません。(「緑の風」No.99号より一部転載)